



研究期間 終了

第5期研究プロジェクト **私たちが大切にしたい心の育ちとは何か**

令和元年6月にスタートして、民営保育園・私立幼稚園・市営保育所・市立幼稚園・小学校と様々な環境・立場で働くメンバーが、幼児期から小学校中学年までの自園校の事例を持ち寄り、検討を重ねてきました。2年次、さらに事例検討を重ねる中で「乳児期の事例でも語り合いたい」「小学校高学年やさらに思春期はどうなっていくのだろう」と研究への意欲もさらに高まっていました。今期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため途中3か月間の研究会開催中止となったり、なかなか参加しにくい状況もあり、検討しつくせなかった部分もありますが、今まで深めてきた研究の成果をまとめ、来年度に発信したいと考えています。

第5期研究プロジェクトに参加して思うこと



「心の育ち」を言葉で伝えるのは難しい

様々な事例を持ち寄り、「心の育ち」について語り合ってきたことを発信したい



具体的なエピソードと共に示さないと、なかなかこうだと言言では言えない



そこで..

① エピソード集を作ろう!



イメージは、第4期研究プロジェクトで作成した冊子『こんなときあなたならどう寄り添いますか』の心の育ちバージョン



でも事例集だけでは、あの語り合いの場の空気感が伝わらない

語り合いの様子を録画して同時に伝えよう



② 報告会をしよう!

研究プロジェクトでの検討会のおもしろさはどこから?



報告会のお知らせ

令和3年8月5日(木)
第6回共同機構研修会
令和3年8月25日(水)
第7回共同機構研修会

詳細は、研修案内でお知らせします。

楽しみに

お待ちください



発達障害の子どもが 園で生き生きと過ごせるために

講師 竹田 契一 大阪医科大学LDセンター顧問

発達障害は全て中枢神経系の障害が背景にあり、広い意味で脳の障害です。親の「育て方」「躰」「その子の生まれた育った環境」が原因にはならないことが分かっています。けれども、子育てはうまくいって当たり前、何かあると全て母親に責任があるような風潮がまだまだ日本には残っています。うまく相談する人や場所が見つけれず孤立してしまう母親もいます。子どもが様々に発達の課題を抱えているときには、子どもだけではなく、その背景にいる母親が非常に辛い思いをし、不安な気持ちでいることにも思いを巡らせてください。

発達障害の子どもの特性に合わせた関りや環境が整っていないことから、子どもがふさわしくない行動をとってしまったり、トラブルになったりすることがあります。困った子どもだと思われがちですが、困っているのは子どもの方です。どうして自分が叱られるのかが理解できない、あるいはその場では理解できてもすぐに忘れてしまうなどの特性から同じことを繰り返してしまい、「何度言ったら分かるの」とまた叱られる。「自分はダメな子だ」とどんどんと自信が無くなってしまいます。できていないことを叱るのではなく、できたとき、我慢できたときなど頑張ったプロセスを褒めましょう。伝えるときには、ゆっくりと丁寧にはっきりと優しく言いましょう。そして子どもが発している言葉の裏にある伝えたい気持ちを理解しようとする寄り添う気持ちが大切です。2つ以上のことを同時にするのも苦手です。見通しを持って段取りを追って取り組めるように、指示の仕方を工夫しましょう。

発達障害にはADHDや自閉症スペクトラム症などがあり、それぞれに特性があります（詳しい内容については、講義録をご覧ください）。そして同じ障害であっても子ども一人ひとりのもつ特性は違います。子どもが生き生きとしっかりとその場を過ごすためには、子どもに合わせる必要があります。発達障害の特性の理解はもちろんのこと、一人ひとりの子どもをしっかりと理解し関わって欲しいと思います。

*上記の要約は、講義をもとに編集したものです。

DVD貸出中

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！



発行日 令和3年3月22日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>